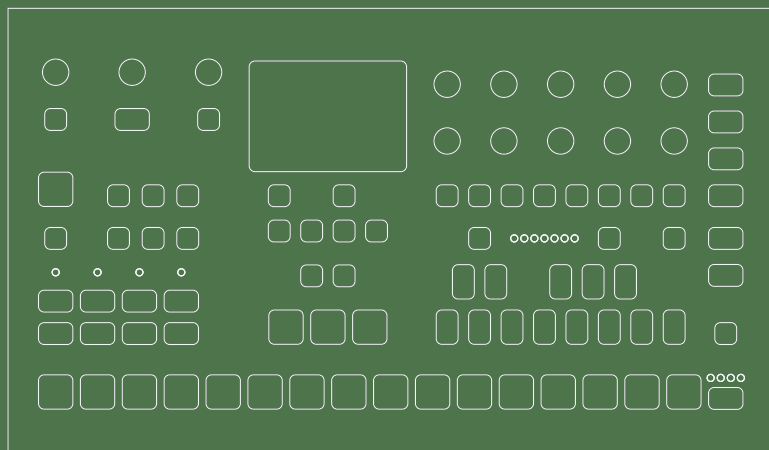


Analog Four MKII

デジタルマインド、アナログソウル



クイックガイド

 **elektron**





Analog Four MKII

謝辞

Analog Four MKIIをお買い上げいただきありがとうございます。

本製品はとりわけ高い評価を得ている Elektron ステップシーケンサーをフィーチャーした、デジタル制御式アナログシンセサイザーです。最新の科学技術と、実績と信頼のあるサウンド生成の方法を今までにない組み合わせで統合し、アナログの世界を最大限に楽しんでいただけます。Analog Four MKIIは、卓上アナログシンセサイザーの新たなベンチマークです。これまでよりも深い低音を実現する回路調整、新しい強力なサウンドコントロール、ボイス単位の専用出力。

言うまでもなく、ボタンは耐久性に非常に優れ、大きな OLED 画面とプレミアムなデザインを備えています。あらゆる機能をつめこみました。Analog Four MKII はデジタルとアナログ、2つの世界の最高の力を併せ持っています。比類のないアナログのインパクトと、刃物のように鋭いデジタル精度。これは、クリエイティブなアーティストのためのアナログシンセサイザーです。

このクイックガイドでは、本製品の基本的な機能について説明します。詳細な情報は、www.elektron.se からダウンロードすることができる、Analog Four MKII ユーザーマニュアルを参照してください。

充実したクリエイティブな経験ができるようお祈りしています。どうぞお楽しみください。

- Elektron チーム

FCC 適合宣言書

本機器は FCC 規則の 15 項に準拠しています。機器の使用は、以下の 2 つの条件の対象となります。

(1) 本機器は、有害な障害を発生させない。(2) 本機器は、希望しない動作を発生させる場合のある障害を含む、受信した全ての障害を受け入れなければならない。

注記：本機器はテストにより、クラス B デジタル装置の基準を満たし、FCC 規則の 15 項に準拠することが確認されています。これらの基準は、住宅での設置における有害な障害に対して、適切な保護を規定することを目的としています。本機器は、無線周波数のエネルギーを生成、使用、放射します。指示に従って設置、使用されていない場合、無線通信に有害な障害が発生する場合があります。しかし、特定の設置方法をとれば障害が発生しないという保証はありません。この機器がラジオやテレビの受信に有害な障害を発生させているかどうかは、機器をオフ / オンにして確認できます。もし発生させている場合は、以下の方法のいずれかによって、障害の修正を試すことが推奨されています。

- 受信アンテナの方向あるいは位置を変更します。
- 機器とレシーバーの間の距離を離します。
- 機器を、レシーバーが接続されているものとは異なる電源コンセントに接続します。
- 代理店または経験豊富なラジオ / テレビ技術者に相談します。

Canada

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.
Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003.

European Union regulation compliance statement

This product has been tested to comply with the Low Voltage Directive 2006/95/EC and the Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC. The product meets the requirements of RoHS 2 Directive 2011/65/EU.



Your product must be disposed of properly according to local laws and regulations.

法的免責事項

本書の情報は予告なしに変更されることがあります。また Elektron による言質として解釈されるべきものではありません。Elektron は、本書にある誤りに対して責任を負いません。また Elektron は、本書に記載の製品およびプログラムを予告なしに改善または変更を行うことがあります。契約、過失、またはその他の行為に関わらず、本情報の使用または性能から生じるまたは関連するいかなる場合でも、Elektron は、特殊な、間接的な、または結果として発生する損害、または使用、データ、利益の損失から生じる何らかの損害に対して責任を負いません。

安全に関する重要な指示

1. 本製品を水のかかる場所で使用しないでください。
2. ケースや画面を、薬品などでクリーニングしないでください。埃や汚れや指紋を除去する際は、柔らかく乾いた滑らかなクロスを使用します。汚れが落ちない場合は、水で布を少しだけ湿らせてから、ふき取ってください。クリーニング中は、すべてのケーブルを外してください。製品が完全に乾いてから、ケーブルを再度接続してください。
3. 傷がついたり損傷しないよう、筐体や画面付近で鋭利なものを使用しないでください。画面に力をかけないでください。
4. 本体の設置を行う際は、メーカーのマニュアルに従ってください。使用を始める前に、本体を安定した場所に設置する必要があります。本体をラックに設置する場合は、ラックの取り付け穴に4本のネジをすべて締めてください。
5. 本体の設置場所の近くにあるコンセントに電源アダプターを接続してください。
6. 本体を輸送する場合は、メーカー推奨の付属品を使用するか、元の箱と緩衝材を使用してください。
7. 本体を、ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、その他の熱を発生する機器（アンプを含む）の近くに設置しないでください。
8. 本体の電源が入っている時は、保護カバーを本体にかぶせないでください。
9. 本製品は、本体のみ、またはアンプ、ヘッドフォン、スピーカーと組み合わせて使用することで、永久的聴力損失の原因となりうる大音量を発生させることができます。大音量や不快なレベルの音量で使用しないでください。
10. 電源コードが踏まれたり、プラグ、ソケット、本体の接続部でねじれたりしないようにしてください。
11. メーカー指定の付属品を使用してください。
12. 雷が発生しているとき、長期間使用しないときには、電源アダプターをコンセントから抜いてください。
13. 修理を行うときは、必ず資格のある修理担当者にご相談ください。本体に液体をこぼしたり、物を落としたりした場合や、本体が雨や霧にさらされたり、正常の動作をしなかったり、落下したりした場合など、機器に何らかの損傷がある際は修理が必要です。

警告

火災、感電、製品破損のリスクを軽減するため、以下の指示に従ってください。

- 本体を雨、霧、水しぶきにさらさないでください。また、液体の入った物を本体の上に置かないでください。
- 本体を直射日光のあたる場所に置いたり、室温が 35℃を超える環境で使用したりしないでください。誤動作につながります。
- 分解しないでください。本体内部にユーザーが自身で修理、調整できる部品はありません。必要な場合は、専門のサービス技術者に修理を依頼してください。
- 電気的仕様で指定されている制限を超えないようにしてください。

Elektron の電源アダプター PSU - 3b の安全に関する指示

- アダプターは、屋内用として開発されており、屋外では使用しないでください。
- アダプターの通気性を確保するため、狭い場所には設置しないでください。過熱による感電や火災のリスクを防止するため、カーテンやその他の物体でアダプターの通気を妨げないでください。
- 直射日光にさらしたり、室温が 40℃を超える環境で使用したりしないでください。
- 本体の設置場所の近くにあるコンセントにアダプターを接続してください。
- 電源コードが接続されているときには、アダプターはスタンバイモードになります。電源コードがコンセントに接続されている限り、初期回路は常にアクティブです。電源を完全に遮断する場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。
- EU では、CE 認可の電源コードのみを使用してください。

目次

1.はじめに	10
1.1 本書の表記.....	10
2.パネルレイアウトと接続	11
2.1 フロントパネルのコントロール.....	11
2.2 リアパネルの接続.....	14
3. Analog Four MKIIの構造の概要	15
3.1 +Drive.....	16
3.2 データ構造.....	16
3.3 トラックの種類について.....	17
4.ユーザーインターフェイス	18
4.1 画面の操作.....	19
4.2 パラメーターの編集.....	19
4.3 パラメーター値のジャンプ.....	19
4.4 [FUNC] キーを組み合わせた使用.....	19
4.5 クイック スクロール.....	19
4.6 コピー、クリア、貼り付け.....	19
4.7 NAMINGメニュー.....	20
4.8 Overbridge.....	21
5.作業の開始	21
5.1 設定と起動.....	21
5.2 工場出荷時プリセットの再生.....	22
5.3 パフォーマンスモードの使用.....	22
5.4 パラメーターの調整.....	23
5.5 シンセトラックのサウンドの変更.....	23
6.シーケンサー	24
6.1 パターンの選択.....	24

6.2	パターン制御	24
6.3	トリガーの種類	24
6.4	パターンレコーディングモード	25
6.5	GRID RECORDINGモード	25
6.6	LIVE RECORDINGモード	25
6.7	パラメーターロック	26
6.8	PATTERNモード	26
6.9	スケール設定	27
7.	技術情報.....	28
8.	著作権表示と連絡先情報.....	29

1. はじめに

1.1 本書の表記

本書では次の表記を使用しています。

キー名は大文字および太字で表記し、括弧で囲みます。例：「FUNC」というラベルの付いたキーは **[FUNC]** と表記します。

メニュー名は大文字で表記します。例：OSC1 メニュー

パラメータ名および、設定または実行可能な操作のある特定のメニューオプションは、太字および大文字で表記します。例：**VOL**

パラメータ設定の選択肢は OFF のように大文字で表記します。また特定のメニュー設定も、LEGATO のように大文字で表記します。

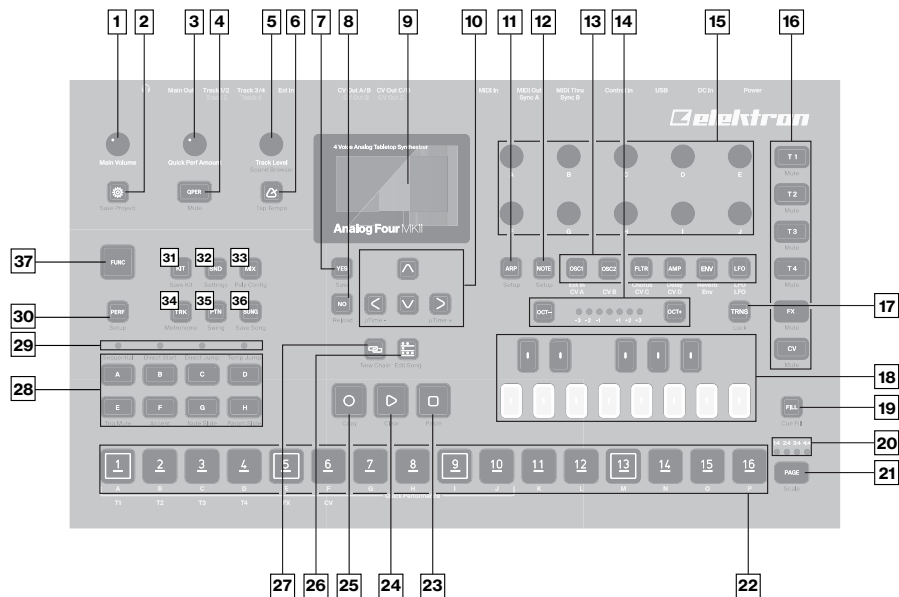
画面に表示されるメッセージは大文字と鍵括弧で表記します。例：「BANK A : CHOOSE PTN」


ノブは大文字、太字および斜体で表記します。例：ノブ「Track Level」は ***TRACK LEVEL*** と表記します。


オクターブ移調 LED などの LED インジケータは、<OCTAVE> のように表記します。



2. パネルレイアウトと接続

2.1 フロントパネルのコントロール



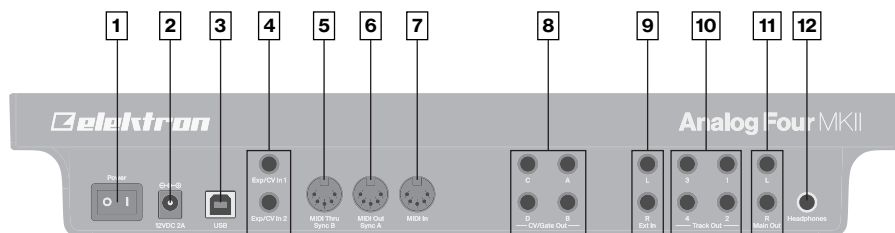
1. **MAIN VOLUME:** メイン出力とヘッドフォン出力の音量を設定します。
2. **[GLOBAL SETTINGS]** : GLOBAL SETTINGS メニューが表示されます。二次機能として、現在のプロジェクトを保存します。
3. **QUICK PERF AMOUNT:** 選択したパフォーマンスマクロの量を設定します。

4. **[QPER]** キー: **[TRIG 1-10]** キーと共に使用して、**QUICK PERF AMOUNT** ノブでコントロールするパフォーマンスマクロを選択します。二次機能として、パフォーマンスマクロをミュートします。
5. **TRACK LEVEL**: アクティブなトラックの音量レベルを設定します。また、メニューやパラメーター値の設定に使用します。二次機能として、**SOUND BROWSER** を開きます。
6. **[TEMPO]** : **TEMPO** メニューが表示されます。 **[FUNC] + [TEMPO]** で、テンポをタップできます。
7. **[YES]** キー: サブメニューを表示したり選択内容を確定するために使用します。
8. **[NO]** キー: アクティブなメニューを終了して、手順を1つ戻すために使用します。
9. 画面。
10. **[ARROW]** キー: メニューの移動に使用します。 **[UP]**、**[DOWN]**、**[LEFT]**、**[RIGHT]** があります。
11. **[ARP]** キー: アルペジエーターの設定ができる **ARPEGGIATOR** メニューが表示されます。
12. **[NOTE]** キー: アクティブなトラックの音の設定がある **NOTE** メニューが表示されます。
13. **[PARAMETER]** キー: アクティブなトラックの **PARAMETER** ページを切り替えます。キー上の文字列は、4つのシンセトラックのページを表します。キーの下の白色の文字列の最初の行は、FXトラックページ、白色の文字列の2行目は、CVトラックページを表します。 **[PARAMETER]** キーをもう一度押すと、次の **PARAMETER** ページが表示される場合があります。
14. **[OCT-/+]** キー: **[KEYBOARD]** キーをトランスポートします。 <OCTAVE> LEDは現在の移調を示します。
15. **DATA ENTRY** ノブ: パラメーターの調整に使用します。
16. **[TRACK]** キー: アクティブなトラックを選択します。4つのシンセトラック、1つのFXトラック、1つのCVトラックがあります。これらのトラックは、**[T1 ~ 4]**、**[FX]**、**[CV]** という名前です。 **[FUNC] + [TRACK]** でトラックをミュートします。 **[TRACK]** キーの色は、トラックの状態を示します。赤 = アクティブなトラック。緑 = トラックがオン。消灯 = トラックはミュートされている。黄 = アクティブかつミュートされているトラック。暗い赤 = (FXトラックがアクティブな場合) FX設定が有効なトラック。
17. **[TRNS]**: トラック上のノートトリガーをトランスポートします。二次機能として、トランスポート機能をロックします。

18. **[KEYBOARD]** ボタン: サウンドの再生と、ノートトリガーへの音価の割り当てに使用します。最初のキーの名前は、**[KEYBOARD C1]** です。
19. **[FILL]**: (GRID RECORDING モードがアクティブでない場合) FILL モードをアクティブにします。二次機能として、FILL モードをキューします。
20. <PATTERN PAGE> LED: アクティブなパターンに構成されているパターンページ数と、どのパターンページが現在アクティブであるかを示します。現在再生されているパターンページの LED が点滅します。
21. **[PAGE]**: GRID RECORDING モードでアクティブなパターンページを選択します。アクティブなパターンページはキーの上の 4 つの LED で示されます。二次機能として、SCALE メニューにアクセスします。
22. **[TRIG]** キー: シーケンサーにトリガーを入力する時に使用します。また、パターンを選択する時にも使用します。
23. **[STOP]**: 再生を停止します。二次機能としては、貼り付け操作を行います。
24. **[PLAY]**: 再生を開始します。二次機能として、クリア操作を行います。
25. **[RECORD]** キー: GRID RECORDING モードをアクティブまたは非アクティブにします。**[PLAY]** を押したまま押しすと、LIVE RECORDING が開始します。二次機能として、コピー操作を行います。
26. **[SONG MODE]** : SONG モードをアクティブまたは非アクティブにします。
27. **[CHAIN MODE]** : CHAIN モードをアクティブまたは非アクティブにします。
28. **[BANK A ~ H]**: バンク A ~ H を選択します。
29. <PATTERN MODE> LED: どのパターンモードが選択されているかを示します。
30. **[PERF]**: PERFORMANCE モードになります。
31. **[KIT]**: KIT メニューが開きます。二次機能として、現在のキットを保存します。
32. **[SND]**: SOUND メニューを開きます。二次機能として、SOUND SETTINGS メニューを開きます。
33. **[MIX]**: PERFORMANCE MIXER を開きます。二次機能として、POLY CONFIG メニューを開きます。

34. **[TRK]**: TRACK メニューが開きます。二次機能として、CLICK TRACK メニューを開きます。
35. **[PTN]**: パターンメニューが開きます。二次機能として、SWING メニューを開きます。
36. **[SONG]**: SONG メニューが開きます。二次機能として、アクティブなソングを保存します。
37. **[FUNC]** キー: 長押しすると二次機能にアクセスできます。二次機能は、パネルに緑色のテキストで表記されています。

2.2 リアパネルの接続

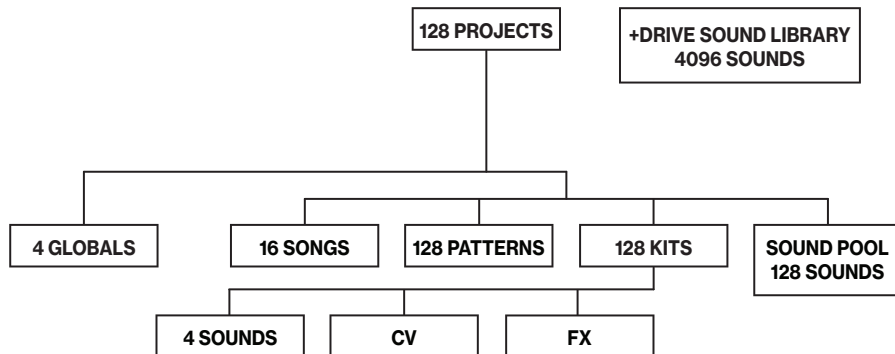


1. **POWER**: 本体の電源をオン / オフします。
2. **DC IN**: 付属の Elektron PSU-3b 電源アダプターを使用して電源コンセントに接続します。
3. **高速 USB 2.0**: A-B USB 2.0 コネクタケーブルを使用してコンピューターのホストに接続します。
4. **EXP/CV IN**: エクスプレッションペダルまたは CV の入力。CV 信号用標準 1/4 インチモノラルフォンプラグを使用します。
5. **MIDI THRU/SYNC B**: MIDI IN インチからデータを転送します。DIN sync をお持ちの機器に送信する構成にすることもできます。標準の MIDI ケーブルを使用して、別の MIDI 機器にチェーン接続します。
6. **MIDI OUT/SYNC A**: MIDI データ出力。DIN sync をお持ちの機器に送信する構成にすることもできます。標準の MIDI ケーブルを使用して、外部 MIDI 機器の MIDI 入力に接続します。
7. **MIDI IN**: MIDI データ入力。標準の MIDI ケーブルを使用して、外部 MIDI 機器の MIDI 出力に接続します。

8. **CV OUTPUTS A ~ D:** 外部シンセの CV 入力に接続します。標準 1/4 インチモノラルフォンプラグを使用します。
9. **AUDIO INPUT L/R:** 標準 1/4 インチモノフォンプラグを使用して他のシンセサイザーまたはミキサーからのサウンドを入力します。
10. **TRACK 1 ~ 4 STEREO OUTPUTS:** 標準 1/4 インチステレオ（チップ/リング/スリーブ）フォンプラグまたは 1/4 インチモノフォンプラグを使用します。
11. **MAIN OUT L/R:** 1/4 インチモノフォンプラグ（アンバランス接続）または 1/4 インチステレオ（チップ/リング/スリーブ）フォンプラグ（バランス接続）のいずれかを使用します。
12. **HEADPHONES:** ステレオヘッドフォン用オーディオ出力。1/4 インチ（チップ/リング/スリーブ）フォンプラグを使用します。

3. Analog Four MKII の構造の概要

次の図は、Analog Four MKII のデータ構造の概要です。



3.1+Drive

+Drive とは、非揮発性メモリです。最大 128 のプロジェクト（数千のパターン、キット、ソング）を内部に格納することができます。また、4096 個のサウンドを保存可能な +Drive サウンドライブラリにアクセスできます。これらのサウンドにはすべてのプロジェクトからアクセスできます。

3.2 データ構造

3.2.1 プロジェクト

プロジェクトには、128 個のパターン、128 個のキット、16 個のソング、4 個のグローバルスロット、および最大 128 個のサウンドから成るプロジェクトサウンドプールがあります。一般的な設定と状態（テンポ、ミュートなど）も各プロジェクトに格納されます。プロジェクトをロードすると、プロジェクトは Analog Four MKII でアクティブな作業状態になります。ここから、プロジェクトのパターン、キット、ソング、グローバルを編集できます。Analog Four MKII は電源がオフの時も、アクティブな作業状態、アクティブなプロジェクトを保持します。ただし、プロジェクトスロットに手動で保存してから別のプロジェクトをロードしないと、その内容は失われます。プロジェクトの保存やロードなどは、GLOBAL メニューで行います。

3.2.2 キット

キットには、各シンセトラックに 1 つ、計 4 つのサウンドと、FX および CV トラックの設定が含まれます。Analog Four MKII の 1 プロジェクトごとに 128 個までのキットを使用できます。各パターンは、キットにリンクされます。

3.2.3 サウンド

サウンドは、保存されているシンセトラックのパラメーター設定から構成されます。1 つのシンセトラックに 1 つのサウンドをホストできます。サウンドは、アクティブなプロジェクトのサウンドプールまたは +Drive のサウンドライブラリのいずれかに保存できます。サウンドプールには 128 個のサウンドを保存できます。+Drive のライブラリには最大 4096 個のサウンドを保存できます。

3.2.4 バンク

プロジェクトごとに 8 個のバンクがあり、各バンクには 16 個のパターンを保存できます。

3.2.5 パターン

8 個のバンクそれぞれに 16 個のパターンを保存できます。つまり、常に 128 個のパターンを使用できます。パターンは、トリガー、パラメーターロック、シンセトラック、FXトラック、CVトラックの拍子および個々のトラック長、ARP および NOTE ページの設定などのシーケンサーデータから構成されます。

3.2.6 ソング

1 つのプロジェクトで 16 個のソングを使用できます。ソングは、パターンの再生の構築に使用します。

3.2.7 チェーン

チェーンとは、パターンのシーケンスです。最大 256 個のパターンスロットを 64 個のチェーンに割り当てることができます。

3.2.8 グローバル

GLOBAL メニューで、プロジェクトの保存、ロード、管理や、SysEx データの処理、OS アップグレードの実行を行います。また、シンセサイザー、シーケンサー、MIDI、CV 構成の一般的な設定もこのメニューで行います。1 つのプロジェクトで 4 個のグローバルスロットを使用できます。それぞれ独立した設定にできます。

3.3 トラックの種類について

3.3.1 シンセトラック

シンセトラックは、トラック 1 ~ 4 で構成されます。シンセトラックを編集するには、[T1 ~ 4] トラックのキーを押します。サウンドは、シンセトラックにロードされます。サウンドはポリフォニック再生することができます。

3.3.2 FX トラック

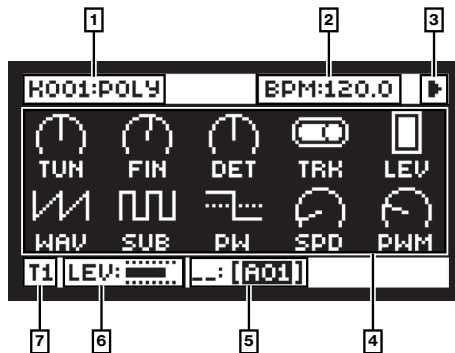
FXトラックで、Analog Four MKII の内部センドエフェクトをコントロールします。FXトラックを編集するには、[FX] トラックのキーを押します。

3.3.3 CV トラック

CVトラックは、アナログ CV およびゲート信号を受信できる外部機器のコントロールに使用します。CVトラックを編集するには、[CV] トラックのキーを押します。

4. ユーザーインターフェイス

画面は、Analog Four MKII の編集を行うメインの場所です。



1. 現在アクティブなキットです。**DATA ENTRY** ノブを回すと、調整したパラメーターの完全な名前が表示されます。
2. 現在のテンポが、1桁で表示されます。
3. シーケンサーの再生 / レコーディングステータスです。標準の「レコーディング」、「再生」、「一時停止」、「停止」の記号 (■、▶、||、■) で表示されます。
4. トラックパラメーターが最大 10 個表示されます。**DATA ENTRY** ノブのコントロール対象や、現在のパラメーター値が表示されます。ノブを押して回すと、パラメーターの値の調整幅が大きくなります。
5. 現在アクティブなパターンです。左側には、アクティブなソング行が表示されます。「_」は、スクラッチ パッド行がアクティブであることを示します。
6. バーは、アクティブなトラックのトラックレベルを示します。
7. トラック名です。

4.1 画面の操作

[ARROW] キーの [UP]、[DOWN]、[LEFT] または [RIGHT] を使用して、メニューやサブメニュー間を移動します。TRACK LEVEL ノブを使用して、メニューやリストをスクロールすることもできます。

[YES] は、確認、選択、サブメニューの表示、ボックスをチェックする / チェックを外す操作に使用します。

[NO] は、否認、選択解除または1つまたは複数のステップを戻す操作に使用します。

4.2 パラメーターの編集

6つの [PARAMETER] キーで、トラックを編集するページが表示されます。DATA ENTRY ノブデータを使用してトラックパラメーターの値を変更します。画面のパラメーターの位置は、フロントパネルのノブの物理的な場所に対応しています。

4.3 パラメーター値のジャンプ

特定のパラメーターを編集する場合に、[FUNC] を押すと、パラメーター値が適切な位置にジャンプします。例えば、オシレーターのチューニングで使用すると、オクターブジャンプします。

4.4 [FUNC] キーを組み合わせた使用

[FUNC] キーを他のキーと組み合わせて使用する場合、通常は [FUNC] キーを押したまま、組み合わせる2つ目のキーを短く押します。

4.5 クイックスクロール

TRACK LEVEL ノブを使用してメニューをスクロールします。多くのメニューでクイックスクロールを使用できます。[FUNC] + [UP] または [DOWN] キーを押すと、カーソルが次または前のメニューページに移動します。

4.6 コピー、クリア、貼り付け

コピー、クリア、貼り付けコマンドは、多くの箇所で使用できます。コピーするには、[FUNC] + [RECORD] を押します。貼り付けるには、[FUNC] + [STOP] を押します。クリアするには、[FUNC] + [PLAY] を押します。貼り付けとクリアの操作は、同じ組み合わせのキーを押すと元に戻ります。詳細については、Analog Four MKII ユーザーマニュアルを参照してください。

4.7 NAMING メニュー

名前を付ける手順は、すべての名前を付けるメニューで共通です。



[LEFT] および [RIGHT] 矢印キーを使用して、文字間を移動します。TRACK LEVEL ノブを回すか、[UP] または [DOWN] 矢印キーを押して、文字を選択します。[FUNC] + [NO] で文字を消去します。

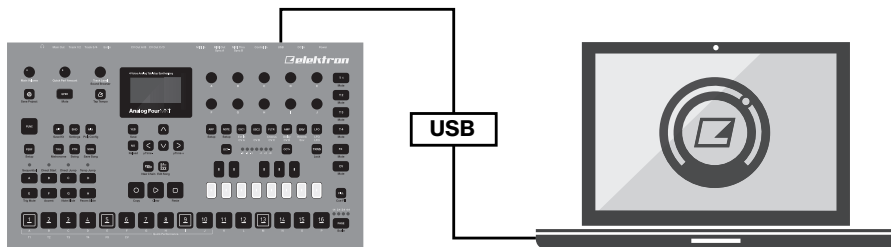
4.7.1 ポップアップメニューでの名前付け

NAMING メニューでは、利用可能なすべての文字、記号、数字を表示するポップアップメニューを開くことができます。ポップアップメニューを使用すると、大抵の場合、非常に速く名前を付けることができます。NAMING メニューが開いているときに、[FUNC] キーを押してポップアップメニューにアクセスします。



[FUNC] を押したまま、[ARROW] キーを使用して挿入する文字に移動します。[FUNC] を放すと、その文字が挿入されます。

4.8 Overbridge



Overbridge ソフトウェアサイトを使用して、Analog Four MKII とコンピューターの DAW を緊密に統合できます。Overbridge を使用する際は、Analog Four MKII のユーザーインターフェイスそのものが、DAW のプラグインウィンドウにレイアウトされます。サウンドを形作るためのパラメーターのアクセス、編集、および自動化を画面で行えます。トータルリコール機能を使うことで、使用している機器のプリセットパラメーターを必ず DAW プロジェクトに戻った時と同じ状態にしておくことができます。

Overbridge の使用方法と入手方法について

詳しくは、Elektron Web サイト (<https://www.elektron.se/overbridge/>) を参照してください。

5. 作業の開始

5.1 設定と起動

Analog Four MKII が、ケーブル類を配置するスペースのある安定した場所（頑丈なテーブルなど）に置いてあることを確認します。Analog Four MKII を他の機器に接続する前に、すべての機器の電源がオフになっていることを確認します。

1. 電源コンセントに付属の DC アダプターを接続し、小型プラグを Analog Four MKII の DC 入力端子に接続します。

2. Analog Four MKII の MAIN OUT L/R をミキサーまたはアンプに接続します。
3. MIDI を使用する場合は、Analog Four MKII の MIDI OUT をデータの送信先の機器の MIDI IN に接続します。Analog Four MKII の MIDI IN をデータの送信元の機器の MIDI OUT に接続します。MIDI THRU ポートは、MIDI IN ポートに到着したデータを「エコー」します。これは複数の MIDI 機器をチェーン接続する際に使用します。
4. すべての機器の電源を入れます。

5.2 工場出荷時プリセットの再生

Analog Four MKII にはいくつかのプリセットパターン、キット、およびサウンドが付属しています。Analog Four MKII の操作をすぐに始めるには、次の手順を行ってください。

1. Analog Four MKII の電源をオンにします。
2. **[PLAY]** を押すと、パターン A01 が再生されます。
3. **[BANK A] + [TRIG 2]** を押すと、2 番目のデモパターンであるパターン A02 が再生されます。パターン A02 は、現在再生中のパターンが終了すると再生が始まります。パターン A03 は **[BANK A] + [TRIG 3]** を押して選択します。以降も同様の操作で選択します。
4. ミュートするには、**[FUNC] + ミュートするトラックの [TRACK]** キーを押します。再度同じ手順を繰り返すと、ミュートが解除されます。
5. 再生を停止するには **[STOP]** を押します。

5.3 パフォーマンスモードの使用

PERFORMANCE モードでは、**DATA ENTRY** ノブを使って複数の PARAMETER ページのパラメーターを一度にコントロールできます。こうした、パラメーターの割り当てをパラメーターマクロと呼びます。

1. パターンが再生されていることを確認します。
2. **[PERF]** キーを押して PERFORMANCE モードにします。
3. **DATA ENTRY** ノブを回すとパターンのサウンドが変化します。

5.4 パラメーターの調整

各トラックには、6つのPARAMETERページがあります。各パラメーターはサウンドに効果を与えます。

1. パターンが再生されていることを確認します。
2. **[T1 ~ 4]** キーのいずれかを押して、4つのシンセトラックのいずれかを選択します。
3. ラダーフィルターのカットオフを変更するには、**[FLTR]** キーを押します。FILTERページが開きます。**FRQ**というパラメーターで、ラダーフィルターのカットオフを変更します。**DATA ENTRY** ノブ **A** を回してパラメーター値を変更します。
4. PARAMETER ページの残りのパラメーターで、サウンドがどのように変化するかを試してみてください。
5. サウンドを元の状態に再ロードするには、**[NO] + [SND]** を押します。
6. キット全体を元の状態に再ロードするには、**[NO] + [KIT]** を押します。

5.5 シンセトラックのサウンドの変更

4つのシンセトラックにはそれぞれ、1つのサウンドが含まれています。SOUND BROWSERを使用して、サウンドをプレビューし、シンセトラックにロードすることができます。

1. **[TRACK 1 ~ 4]** キーを2回押して、SOUND BROWSERを開きます。また、SOUND BROWSERは、**[FUNC] + TRACK LEVEL** を押しても開きます。
2. SOUND BROWSERには、+Drive サウンドライブラリまたはサウンドプールに格納されているすべてのサウンドのリストが表示されます（+Drive サウンドライブラリの別のサウンドバンクからサウンドをロードする場合は、**[TRIG 1 ~ 16]** を押します）。**TRACK LEVEL** ノブを回すか、**[UP]/[DOWN]** キーを押してリストをスクロールします。サウンドは、リストでハイライト表示して **[KEYBOARD]** を再生することでプレビューできます。
3. ハイライト表示されたサウンドをロードするには、**[YES]** を押します。

6. シーケンサー

Analog Four MKIIのシーケンサーは、パターンに情報を格納します。パターンは、シンセ、FX および CV のトラックの再生や、これらのトラックのさまざまな側面をコントロールします。

6.1 パターンの選択

1. **[BANK A ~ H] + [TRIG 1 ~ 16]** キーを押して、バンクとパターンを選択します。

データを含むパターンは、**[TRIG]** キーがやや明るい赤色に点灯します。現在アクティブなパターンは、**[TRIG]** キーが明るい赤色に点灯します。

6.2 パターン制御

[PLAY] を押すと、パターンの再生が始まります。**[STOP]** を押すと、パターンの再生が停止します。サウンドはカットオフされますが、サチュレーターディレイなどのエフェクトは、ディレイの繰り返しがフェードアウトするまで聞こえます。シーケンサーが停止したらすぐに **[STOP] + [STOP]** を押すと、すべてのトラックの再生が停止し、サウンドエフェクトもすぐにフェードアウトします。

パターンを再生している時に **[PLAY]** を押すと再生が一時停止します。もう一度、**[PLAY]** を押すと再生が再開します。

パターンに含まれているシーケンサーステップが 16 個以上ある場合、<PAGE> LED が点灯します。パターンの再生中は、現在アクティブなパターンページの <PAGE> LED が明るく点滅します。

6.3 トリガーの種類

トリガーは、シーケンサーでアクションを実行する場所に配置できるシーケンサーイベントです。トリガーには、ノートトリガーとロックトリガーの 2 種類があります。ノートトリガーは、音符をトリガーし、ロックトリガーは音符をトリガーせずにパラメーターロックを適用するために使用できます。ノートトリガーは **[TRIG]** キーが赤になり、ロックトリガーは **[TRIG]** キーが黄色になります。LIVE RECORDING モードでロック可能なパラメーターを変更する場合、ロックされたパラメーターを含むロックトリガーはシーケンサーに自動的に追加されます。

6.4 パターンレコーディングモード

Analog Four MKII には、パターンの作成でトリガーを入力する際に使用できるモードが 2 種類あります。GRID RECORDING モードと LIVE RECORDING モードです。新しいパターンを作成するには、最初にバンクの 1 つで空のパターンスロットを選択します。

6.5 GRID RECORDING モード

GRID RECORDING は、[TRIG] キーを使用してパターングリッドにトリガーを追加する作曲方法です。

1. [RECORD] キーを押して GRID RECORDING モードにします。[RECORD] キーが赤に点灯し、GRID RECORDING モードがアクティブであることを示します。
2. [TRACK] キーを押して、トリガーを追加するトラックを選択します。アクティブなトラックは、[TRACK] キーが赤で点灯します。
3. [TRIG] キーを押して、シーケンサーにノートトリガーを配置します。シンセトラックのトリガーに音価を追加するには、[TRIG] キーを押したまま [KEYBOARD] キーを押します。
4. ロックトリガーを追加するには、[FUNC] と [TRIG] を押します。
5. [PLAY] を押しと、シーケンスが再生されます。

パターンに 16 ステップ以上ある場合、[PAGE] キーを押して編集するパターンのページに切り替えます。アクティブなパターン ページの <PAGE> LED が点灯します。

6.6 LIVE RECORDING モード

LIVE RECORDING モードは、トリガーをトラックに追加する 2 つ目の方法です。このレコーディングモードでは、[KEYBOARD] キーまたは Analog Four MKII に接続されている外部 MIDI キーボードをリアルタイムで演奏し、トラックにトリガーを入力していきます。また、リアルタイムでパラメーターロックを入力することもできます。

1. [RECORD] を押したまま [PLAY] を押して LIVE RECORDING モードにします。[RECORD] キーを押したまま素早く [PLAY] を 2 回押しと LIVE RECORDING のクオンタイゼーションをアクティブまたは非アクティブにできます。シーケンサーの再生が始まり、[RECORD] キーが赤く点滅を始めます。

2. KEYBOARD のキーを押してノートトリガーを入力します。シンセと CVトラックの場合、KEYBOARD のキーを押した分に相当する音価がレコーディングされます。LIVE RECORDING のクオンタイゼーションをアクティブにするには、上記の手順で **[PLAY]** を 2 回押します。トラックからすべてのトリガーをリアルタイムで消去するには、**[TRACK] + [NO]** を押したままにします。シーケンサーの、LED が点灯しているすべてのトリガーがアクティブなトラックから消去されます。
3. **DATA ENTRY** ノブを回してパラメーターロック（およびロックトリガー）を入力します。
4. レコーディングとシーケンサーの再生の両方を停止するには、**[STOP]** を押します。

6.7 パラメーターロック

パラメーターロックは、すべてにトリガーに一意のパラメーター値を割り当てる強力な機能です。トラックのすべてのサンプルトリガーに、異なるピッチやボリュームを設定するといったことができます。パラメーターロックは、ノートトリガーとロックトリガーの両方に適用できます。

GRID RECORDING モードでは、ノートトリガーまたはロックトリガーの **[TRIG]** キーを押したままにして **DATA ENTRY** ノブでロックするパラメーターを調整することで、パラメーターロックを適用します。ロックされたパラメーターは、画面上のグラフィックが反転し、ロックされたパラメーター値が表示されます。ロックされたトリガーの **[TRIG]** キーが点滅を始め、トリガーにパラメーターロックが含まれていることを示します。

[FUNC] + [TRIG] を押してロックトリガーを入力します。ロックトリガーを使用すると、音符をトリガーせずにサウンドを変調できます。

パラメーターロックを 1 つ解除するには、ロックされているパラメーターの **[TRIG]** を押したまま **DATA ENTRY** ノブを押します。サンプルトリガーを削除してもう一度入力すると、すべてのパラメーターロックがトリガーから消去されます。

LIVE RECORDING モードで、パラメーターロックをアクティブなトラックに追加するには **DATA ENTRY** ノブを回します。この操作に応じてパラメーターがロックされ、ロックトリガーがシーケンサーのステップに自動的に配置されます。

6.8 PATTERN モード

パターンを変更する際、モードによってアクティブなパターンの変更方法が異なります。**[FUNC] + [BANK A ~ D]**

を押して PATTERN モードを選択します。<PATTERN MODE> LED で、どのモードが選択されているかが分かります。PATTERN モードには 4 種類あります。

SEQUENTIAL: 現在再生されているパターンが終了した後にパターンが変更されます。このモードはデフォルトのモードです。

DIRECT START: パターンが即時に変わります。新しいパターンは、先頭から再生が始まります。

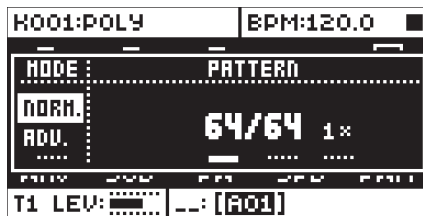
DIRECT JUMP: パターンが即時に変わります。新しいパターンは、前のパターンが終わった場所から再生が始まります。

TEMP JUMP: パターンが即時に変わります。新しいパターンは、前のパターンが終わった場所から再生が始まります。新しいパターンが 1 回再生された後、変更前に再生されていたパターンに戻ります。

6.9 スケール設定

パターンスケールではパターンのステップ数およびパターンページの総数を設定します。左端の数字で、パターンのステップ数を選択します。パターンで使用可能なステップの最大数は、2 番目のパラメーターで指定する合計長によって決まります。16、32、48 または 64 ステップのいずれかです。

3 番目のパラメーターはテンポ係数で、7 種類あります。



1. SCALE メニューにアクセスするには、[FUNC] + [PAGE] を押します。
2. [ARROW] キーの [LEFT] および [RIGHT] を使用して、ステップ長とスケールを切り替えます。
3. [ARROW] キーの [UP] および [DOWN] を使用して設定を変更します。LEVEL ノブを使用して設定を変更することもできます。

7. 技術情報

電氣的仕様

インピーダンスバランスドオーディオ出力:

ヘッドフォン出力レベル: +19 dBu (55 Ω)

メイン出力レベル: +19 dBu

出力インピーダンス: 440 Ωアンバランスド

アンバランスドオーディオ入力:

入力レベル: +19 dBu 最大

オーディオ入力インピーダンス: 9 kΩ

EXP/CV入力

入力電圧 (チップ): -5 V ~ +5 V

電源 +5 V (リング)

エクスペリションペダルまたは CD 使用可能

CV出力

電圧範囲: -10 V ~ +10 V

デジタル S/N 比: 102 dBFS (20 ~ 20,000 Hz)

機器の消費電力: 15 W ティピカル、最大 20 W

推奨電源: 12 V DC、2 A

ハードウェア

128×64 ピクセル OLED 画面

DIN Sync 出力付き MIDI In/Out/Thru

2×1/4 インチメインオーディオ出力ジャック

4×1/4 インチセパレートステレオボイス出力ジャック

2×1/4 インチオーディオ入力ジャック

1×1/4 インチステレオヘッドフォンジャック

4×1/4 インチ CV/ ゲート出力ジャック

2×1/4 インチ CV/ エクスペリション入力ジャック

48 kHz、24 ビット D/A および A/D コンバーター

フラッシュ EEPROM アップグレード可能 OS

電気分離 USB 2.0 ポート

物理仕様

アルミ製筐体

寸法: W385 × D225 × H82 mm

(ノブ、ジャック、足を含む)

重量: 約 2.4 kg

8. 著作権表示と連絡先情報

著作権表示

製品の設計開発

Oscar Albinsson

Ali Alper Çakır

Oscar Dragén

Magnus Forsell

Anders Gärder

Andreas Henriksson

Fabian Hundertmark

Christer Lindström

Jimmy Myhrman

Jon Mårtensson

David Revelj

Mattias Rickardsson

Martin Sigby

Daniel Troberg

その他設計

Thomas Ekelund

Ufuk Demir

マニュアル

Daniel Sterner

Erik Ångman

連絡先情報

Elektron ウェブサイト

<https://www.elektron.co.jp>

所在地

〒151-0053

東京都渋谷区代々木 4-28-8

村田マンション 311号

電話

03 6300 7601

Elektron 3 年保証

Elektron の機器には、元の購入日から 3 年間限定の保証が付いています。保証を受けるには、元の購入日を証明できる、請求書や領収書が必要です。保証期間中に製品の修理が必要な場合、部品や作業に対する料金はかかりません。保証期間中に Elektron マシンを他の所有者に転売する場合、この保証も譲渡することができます。Elektron Style シリーズの製品（T シャツ、ステッカー、ポスターなど）はこの保証の対象外です。

(a) 事故、過失、誤用、濫用、不適切な設置または操作、または本製品のクイックガイドマニュアルまたはユーザーマニュアル完全版の指示に従わない場合、および製品出荷時（苦情は運送会社にお問い合わせください）、および Elektron または認定された Elektron 修理センター以外の者による修理または修理を試みた場合により発生した損害、劣化または故障の場合 (b) 改造された機器やシリアルナンバーが汚れている、変更されている、消されている場合 (c) 通常の摩耗および定期メンテナンスの場合 (d) 汗、腐食性雰囲気または極度の温度や湿度などその他の外部要因による劣化の場合 (e) 電源サージまたは関連する電氣的異常、雷による損害または不可抗力による損害の場合 (f) 不適切な接地または認可 / 非認可に関わらず不適切な装置の使用により生じる RFI/EMI（干渉 / ノイズ）の場合は、この保証の対象外です。

小売業者から購入した製品の保証サービスの手順

保証サービスが必要な場合は、サポートにお問い合わせください。保証を受ける方法についてご説明いたします。Elektron 3 年間限定保証は、購入店で提供する保証に上乘せられます。

Elektron オンラインショップから購入した製品の保証サービスの受け方

保証サービスを受ける必要がある場合は、www.elektron.co.jp から Elektron サポートにお問い合わせください。Elektron の合意がない限り、認定 Elektron 修理センターに機器を送付しないでください。保証サービスを受けるために、機器を認定 Elektron 修理センターに送付する必要がある場合は、送料はお客様の負担となります。保証期間内のお客様への機器の返送にかかる送料は Elektron が負担します。機器の購入時に故障していた場合、または元の購入日の 2 週間以内にハードウェアが故障した場合は、Elektron が認定 Elektron 修理センターへの機器の送料を負担します。



 **elektron**

8061JPN-A